

Vol. 54
2023 SPRING

J
S
U
N
A
G
[繋ぐ]

愛でる Special Issue:

異文化の伝統が融合した 「ギルディング和紙」

PAPER TOPICS 紙の魅力を地域に発信する
紙の専門店「Paper Joy 紙楽」

拓く 放置竹林問題を解決する
サステナブルなりサイクル製品

KPPグループホールディングスが発行するTSUNAGU (繋ぐ)は“紙の魅力再発見”をテーマに、紙と文化・紙と事業・紙と人を「繋ぐ」広報誌です。

愛でる P01

異文化の伝統が融合した
「ギルディング和紙」

拓く P07

放置竹林問題を解決する
サステナブルなリサイクル製品

PAPER TOPICS P09

紙の魅力を地域に発信する
紙の専門店「Paper Joy 紙楽」

伝える P11

女性歴史作家の先駆者から届いた
思いやりの詰まった手紙

OJO+ Column P13

OJO+製品の実物を展示した
「TSUNAGU GALLERY×OJO+展」が開催中

深める P14

KPPグループの最新ニュースを
キャッチアップ

訪ねる P15

新たなコミュニケーションを生み出す
注目のブックカフェにフォーカス

作る 付録

リラックス効果をもたらす
「ゆらゆらカードスタンド」

異文化の伝統が融合した 「ギルディング和紙」

和モダンの雰囲気を持つシンプルなデザインに散りばめられた色とりどりの金属箔が放つ、ニュアンスのある美しい光沢。愛媛県内子町の伝統産業である手漉きの「大洲和紙」に、フランスの装飾技法を施した「ギルディング和紙」は、和と洋が融合した今までにない和紙として世界中から称賛の声を集めています。「ギルディング和紙」という新たなジャンルを確立し、手漉き和紙産業に新しい風を吹き込み続ける株式会社五十崎社中・齋藤宏之さんの言葉を通して、その魅力に迫ります。



①②五十崎社中に隣接した「天神産紙工場」と手漉き和紙工房の様子 ③和テイストとモダンが調和したギルディング和紙の作品 ④力強さと荘厳な輝きを持つ金属箔 ⑤株式会社五十崎社中の齋藤宏之さん



内子町は、松山市から南に約40キロ、愛媛県のほぼ中央部に位置する周囲を山々に囲まれた風光明媚なまちです。里山には小田川が流れ、清らかな水からつくられる「大洲和紙」はその高い製紙技術と優れた品質から国の伝統的工芸品に指定されています。「大洲和紙」は、正倉院文書にも登場するほど歴史が古く、高品質な書道用紙や障子紙として広く流通するなど、江戸時代には大洲藩の主要な産業として発展しました。洋紙の生産増加や機械化、生活様式の変化によって和紙産業が衰退するなか、和紙の新たな可能性を求めて挑戦を続けているのが、株式会社五十崎社中の代表を務める齋藤宏之さんです。「ギルディング和紙」という新たな技術を独自に開発し、手漉き和紙という伝統に新たな風を吹き込んでいます。

ギルディングとは、フランスに伝わる金属箔を使った伝統技法のこと。金・銀・銅をベースに、酸化させてつくった箔を加えた計5種類を混ぜ、額縁や家具などにデザインを装飾する技法です。齋藤さんは、この箔装飾の技を手漉き和紙に施すことで、独創的な色合いを表現する「ギルディング和紙」を生み出しました。「箔はすべてフランスから取り寄せたものを使っています。酸化による化学反応によってブルーやピンクに変色するので、オリジナルの色彩が表現できるのが特徴です」と齋藤さんは話します。

「ギルディング和紙」は、二千以上ストックされた図案をもとに木版やシルクスクリーンなどの版を制作。そこに独自に考案した糊を塗布し

A 図案のアウトラインに塗布した糊の上にイメージに合う色の金属箔を配置 B こするようにブラッシング C ローラーをかけて金属箔を和紙に圧着する D 糊の付いた部分だけ金属箔が残り、複雑で美しい図案が現れる



たのち金属箔をローラーで圧接。ブラッシングをかけると糊の部分だけ箔が残り、複雑でニュアンスのある色彩と光沢が生まれます。「ギルディング和紙で最も難しいのは糊の調整なんです。糊は弊社が独自で開発した水性ベースのもので、塗って乾かすことではじめて粘質が出ます。その粘度が長期間持続するので、細かいデザインであっても時間をかけて加工することができ。気温や湿度によっても箔のノリが変わるので、糊の配合を変えて粘度を調整しています」（齋藤さん）。

齋藤さんがギルディングに出会ったのは2008年のこと。神奈川出身の齋藤さんは大学卒業後、通信系IT企業に就職し、システムエンジニアとして10年間、企画・営業として3年間勤務。次のキャリアとして起業を考えはじめた頃、義父から相談を持ちかけられたことをきっかけに新たな道を踏み出すことになりました。「妻の父親が当時、内子町商工会のメンバーとして和紙産業の活性化を目的とした活動をしていました。そんな義父からガボーさんというフランス人デザイナーがドバイで展覧会を開いているから代わりに視察に行つてほしいと頼まれたんです。旅行も兼ねて気軽な気持ちで現地に行つたんですけど、ガボーさんのギルディングを一目見て衝撃を受けました。彼の技術と和紙を掛け合わせたら面白いものができるんじゃないかと直感したんです。幸い、彼も和紙に興味を持っていたので、私たちの新たな挑戦に協力するために約2年間、家族で内子町に移り住んでくれたんです」と当時を振り返ります。

ガボー・ウルヴィツキさんは、ギルディング技法を用いた壁紙を手がける人気デザイナーです。彼が制作した作品は欧州・北米・中東、日本でも販売され、2007年にはフランス国家遺産企業の認定を受けるなど巨匠としての地位を確立しています。齋藤さんはガボーさん一家の来日のタイミングに合わせて勤めていたIT企業を退社。株式会社五十崎社中を立ち上げたのち、地元の老舗製紙所「天神産紙工場」で和紙職人として修行すると並行



①アートギャラリー「天神館」の内観 ②市毛友一郎さんは、自身がデザインを行う「メルカドデザイン」での活動のほか、若手クリエイター育成を目的としたオンラインコミュニティ「いちげ温泉」、内子町の移住・地域体験をサポートするコミュニティサイト「内子ハイジャー!」を運営 ③今年2月に開催したアート作品の展示販売会の様子 ④「大洲和紙」をつくる職人たちを描いたドキュメンタリー映画「紙の人びと」の上映会の様子 ⑤内子町にある岡野商店の店頭には折り紙の自販機も。天神産紙工場の和紙でつくったミニサイズの折り紙が気軽に購入できる



⑥ギルディング和紙で仕上げた襖。重厚な雰囲気と高級感を演出している ⑦和紙を紙縫り、糸状にしたものを編んでつくる「こよりと和紙」。五十崎社中ならではの商品として人気が高く、室内装飾やブラインドとして重宝されている ⑧天神産紙工場と五十崎社中の商品が豊富に揃うショップ ⑨ギルディング和紙をガラスの中に閉じ込めた「IKAZAKI WASHI JEWELRY」。オンラインストアで購入できる ⑩グリーティングカードなど手軽に購入できる商品も充実

して、ガボーさんからギルディング技法を学びました。日仏の伝統技術を習得した齋藤さんは、試行錯誤の末に大洲和紙を使った「ギルディング和紙」を開発。その後、「バリメゾン&オブジェ」をはじめとした展示会に数多く出展し、国内外に五十崎社中の名を広めることに成功しました。美しい光沢とオリエンタルな様相を備えた五十崎社中のギルディング和紙は、感度の高いデザインを求める企業から注目を集め、ハイブランドの店舗やラグジュアリーホテルの内装材、世界的人気キャラクターとのコラボ商品など、世界中からオーダーメイドの制作依頼が殺到。国内では、地元・愛媛の道後温泉本館や百貨店内のショップなどにも、ギルディング和紙を施したインテリアが採用されています。「ガボーさんの言葉を借りると、和紙はやわらかい天然の素材で、金属箔は硬質で無機質なものの。相違した素材がひとつに融合しているところが高く評価していただいている要因なのかもしれません。

ギルディング和紙はデザインが豊富にあるので、壁紙だけでなく、パネルやタペストリーをはじめ、襖などの建具、グリーティングカードやレターセットといったステーションナリーなど幅広く展開しています」と齋藤さん。ギルディング和紙商品は、ミュージアムショップやインテリア雑貨店での取り扱いも増加中。伝統の手漉き和紙にアートという付加価値を加えたギルディング和紙は、衰退しつつある和紙の魅力を伝えるとともに、現代の日常生活に和紙を取り入れるきっかけをもたらしています。

2018年に「三井ゴールデン匠賞」を受賞するなど大洲和紙の担い手となった齋藤さんは、歩みを止めることなく次のプロジェクトに着手。現代美術作家のスタジオでクリエイティブを学んだのち、現在は移住した内子町の魅力を発信するデザイナー、市毛友一郎さんとともにアートを通じて地域の活性化を図る新たな第二步を踏み出しています。昨年11月、五十崎社中から百メートルの場所に、和紙の空き倉庫を改装したアートギャラリー「天神館」をオープン。その目的を市毛さんにかがうと、「齋藤さんがプロデュースしたこのギャラリーをベースにクリエイターと鑑賞を目的に来る人の両方の人流が生まれ、そこでアート作品の展示販売が定着してアートビジネスとしてマネジメントできるようにすれば、ミニマムなローカルアートマーケットが構築できるんじゃないかと。ここには五十崎社中と天神産紙工場という2つのクラフトの現場があるので、オープンファクトリー要素も含めて地域の活性化

につなげていきたいと思っています」と話します。この天神館では今年2月、市毛さんが運営するオンラインコミュニティ「いちげ温泉」に参加している若手作家の作品を集めた展示販売会を開催。また、地元の映像作家として活躍するKoki Karasudaniさんが監督した、天神産紙工場のドキュメンタリー映画「紙の人びと」の上映会を行うなど、新しいアートのスポットとして確実に認知を広げています。「おかげさまで、1年先まで展示スケジュールが決まっています。このギャラリーを何か楽しいことに出会える場所として、若者や海外からの旅行者にも来ていただきたいですね」と齋藤さん。ギルディング和紙という、アートを軸に多方面に広がり、多様な人々のつながりを創出する取り組みは、まだじまったばかりです。



株式会社 五十崎社中

住所：愛媛県喜多郡内子町五十崎甲1620-3
TEL：0893-44-4403

■ショップ兼ショールーム(天神産紙工場内)

住所：愛媛県喜多郡内子町平岡甲1240-1
TEL：0893-44-4403

詳細はQRコードをチェック▶

<https://www.ikazaki.jp>



放置竹林の有効活用

KPPグループは近年、日本で深刻化する「放置竹林問題」の解決に向けて、さまざまな取り組みを進めています。「放置竹林」とは、その名のとおりタケノコ栽培などを目的に植え付けられた竹林が高齢化や人口減による影響によって整備されなくなり、放置されている状態のことです。竹は生育が早く根を浅く張るため、そのままにしておくと土砂災害などを引き起こしたり、野生鳥獣の住処となることで農作物に甚大な被害を及ぼす恐れがあります。今回は伐採した竹を再利用した製品や有効活用法など、持続可能な社会実現に向けた4つの取り組みをご紹介します。



バンブーインキ / 協業組合ユニカラー

協業組合ユニカラーは、放置竹林による深刻な森林環境の不健康化の問題解消と、生育力が高く繁殖する竹を適度に間伐することが里山再生に直結することから、竹の間伐材を利用した竹紙の積極的利用に取り組んでいます。その竹紙の製造以降、抄造する際に発生する大量のおがくずを印刷で使われる印刷用スミインキに利用する新たな取り組みを進めています。共同で研究開発に携わったインキ会社であるサカタインクス株式会社は、試行錯誤の末に全国初のボタニカルインキ90%+竹炭10%配合のバンブーインキの開発に成功。放置竹林問題が長らく絶えない中で、従来取り組んできた竹の間伐材の利用に加えて廃棄物をアップサイクルすることは、よりサステナブルな取り組みです。同社では、バンブーインキを使って印刷した多くの印刷物を通して、地域貢献、地球貢献へとつなげていく計画です。

■お問合せ
国際紙パルプ商事株式会社
九州支店 営業部 営業第一課
TEL: 092-291-8852(受付:月~金/9:00~17:00)

七夕飾り / 鳴海屋紙商事株式会社

当社グループの鳴海屋紙商事株式会社では、東北三大祭りのうちの一つであり、毎年8月6日~8日に開催される仙台七夕まつりに使用される七夕飾りを制作しています。東京本社ビルのエントランスでは毎年7月頃に、仙台七夕で使用される実物と同じものを展示し、近隣住民や来社されるお客さまに楽しんでいただいております。七夕飾りは和紙製で、短冊の原料には放置竹林の竹を使用しています。短冊の制作に再利用するなど社会問題の解決にもつながる取り組みを通して、当社グループは持続可能な社会構築を推進しています。



■お問合せ
KPPグループホールディングス株式会社
コーポレート・コミュニケーション室
TEL: 03-3542-4169(受付:月~金/9:00~17:00)
MAIL: kpp_cc@kpp-gr.com



持続可能な社会実現に向けた、KPPグループのあくなき挑戦をご紹介します

KPP Sustainable Times

限りある資源やエネルギーを循環・再生させることは、現代社会において極めて重要な課題となっています。当社グループは経営理念である「循環型社会の実現」に基づき、事業を通してサステナブルな社会づくりに貢献し、企業価値の向上を図っています。

modo-cell® (モドセル) / 株式会社アミカテラ

当社グループが出資する株式会社アミカテラは、植物由来で非プラスチック素材「modo-cell® (モドセル)」の製造・販売を手掛ける企業です。同社は、「地球に、優しく」をミッションに、植物残渣や間伐材等の廃棄されてしまう植物を「modo-cell® (モドセル)」の原料として使用しています。KPP東京本社では、昨年より社員食堂の食器を一部アミカテラ製のものに変更。滑らかな見た目で自然な風合いの「modo-cell®」は、社員にも好評です。当社のTikTokやYouTubeショート動画でもご紹介していますので、是非ご覧ください。



■お問合せ
国際紙パルプ商事株式会社
出版・直需営業本部
直需一部 直需第一課
MAIL:
kpp_DirectSalesSec1@kpp-gr.com



竹紙 / 中越パルプ工業株式会社

中越パルプ工業株式会社は、日本の竹100%でできた「竹紙」を製造・販売しています。竹林整備で伐採され処分方法に困っていた大量の竹の活用について、地域からの相談を受け試行錯誤し、今では毎年1万トンもの竹を紙の原料として購入しています。多くの人が竹紙を知ることによって、一人ひとりが社会問題に対して行動を起こすきっかけになればと、各種イベントにも出展しています。今年3月に、紙好きのための祭典「紙博in東京vol.6」(主催:手紙社)で紹介した竹紙カレンダーも大好評。「全国カレンダー展」(主催:日本印刷産業連合会ほか)で毎年上位賞を受賞する竹紙カレンダーは、国内外で高い評価を受けています。竹紙は、当社が運営するネット通販サイト「PAPER MALL」にて販売しています。



竹紙カレンダー「日本の彩2023~杉浦非水の意匠」
©Osamu NISHIMURA



「紙博 in 東京」でのMEETS TAKEGAMI / 中越パルプ工業ブース ©Osamu NISHIMURA

「竹紙」の見本帳を無料でお届けします

中越パルプ工業(株)の竹紙を収録した見本帳を無料配布しています。ご希望の方は、紙を1枚から買えるネット通販サイト「PAPER MALL」からご注文ください。
※無料配布のため、お一人様1冊まで。

■「PAPER MALL」 www.kpps.jp/papermall

ペーパーモール 検索





アクセサリ

最高級の本美濃紙を使用した「Origami Jewel」や幾何学模様が人気の「karupi」など、紙製のアクセサリは女性に人気のアイテム。



生活雑貨 (SIWA)

山梨県にある和紙メーカー大直が手掛ける和紙製品ブランド「SIWA | 紙和」の商品も充実。水に強く破れにくい紙雑貨として人気。



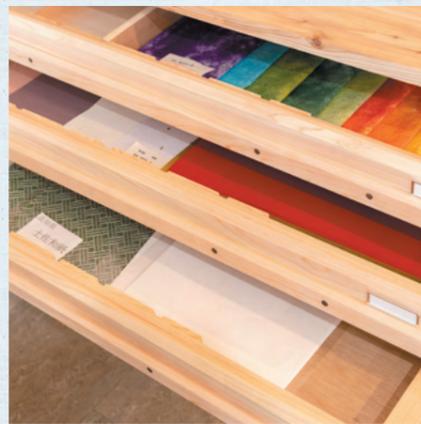
タペストリー

好みの写真を因州和紙にプリントし、掛け軸に加工してくれる紙楽のオリジナル商品。掛け軸のサイズも豊富に用意されている。



ダンボール仕器

ディスプレイに使用するために特注で製作した仕器も段ボール製。陳列する商品との一体感があり、ナチュラルな雰囲気を演出している。



和紙

全国から仕入れた手漉き和紙。奉書紙や檀紙のほか、水滴を落として模様を付ける落水紙もインテリアとして提案している。



スタンドランプ

温かみのある光を放つ提灯型の和紙スタンド。和室のインテリアとしてはもちろんのこと、寝室のベッドサイドランプとしてもおすすめ。



紙の魅力地域に発信する、紙に精通した店主が経営する紙専門店

2019年11月、千葉県のほぼ中央部に位置する市原市にオープンした「Paper Joy 紙楽」は、選りすぐりの紙雑貨を集めたセレクトショップです。店内を見渡すと、バッグやポーチといった小物類から花器やランプシェードなどのインテリア、提灯や団扇といった和雑貨まで、多岐にわたる商品が取り揃えられています。これらの商品に共通するのは、すべて紙でできていること。Tシャツやアクセサリなどの紙製とは思えない品々は、近隣住民の間で話題を集めています。

「うちで扱っている商品は、すべて自分の目で選んだものです」。そう話すのは、店主の甲斐昭二さん。和紙製の雑貨であれば、美濃や越前、土佐といった和紙の産地を歩いてまわり、商品開発担当者やデザイナーからコンセプトや思いをヒアリングしたうえで仕入れる商品をセレクトしているそうです。

実は、この甲斐さんは紙を扱う専門商社に長く勤務し、約40年にわたって紙に関連す

る事業の立ち上げなどに従事してきた人物です。「退職してしばらくはゆっくりしていたのですが、時間が経つにつれて新しいことを始めたいと思うようになりました。いろいろと模索するなか、40年近く紙にまつわる仕事をしてきたのにまだまだ知らないことがたくさんあることに気付いたんです。それから独学で紙について学び、どうせなら一般の方にも紙の魅力を知ってもらうための専門店を開こうと決めました」と当時を振り返ります。

「Paper Joy 紙楽」のコンセプトは、その名が示すとおり地域住民の方々に「紙」を楽しんでもらうこと。甲斐さんは「紙のすばらしさを直に感じてもらうことで、もっと暮らしに紙を取り入れてほしい」との思いから、紙を五感で感じられる場所を提供しています。その第一歩としてはじめたのが、地域の子供たちに折り紙を教えるワークショップ。甲斐さん自身も折り紙講師の資格を取得したうえで、店舗や近隣の催事会場で伝統的な折り紙を教えています。

「折り紙をまったく知らなかった子どももいましたが、日本人のDNAなのか、子どもたちは覚えるのが早いですね」と甲斐さん。また、洋紙だけでなく手漉きと機械式の和紙などさまざまな紙のサンプルを用意し、その手触りはもちろんのこと、ルーペを使って繊維の違いを確かめてもらうなど、紙そのものに興味を持ってもらうための取り組みも行っているそうです。

また、「Paper Joy 紙楽」のある市原市は、千葉県の自治体としては初めて「SDGs未来都市」「自治体SDGsモデル事業」に選定された都市であり、SDGsの理念に対する住民や地元企業の意識が高いそうです。「自治体や地元の信用金庫・証券会社などに紙製ファイルやペーパーペンなどを提案し、採用してもらっています。これからも紙は環境にやさしい素材であることを地道に広めていきたいですね」と話します。甲斐さんの紙を通じて地域社会や環境に貢献する活動は、まだまだ続きます。



Paper Joy 紙楽

住 所：千葉県市原市惣社3-3-8 レイダース1 101
 営業時間：10:00～17:00
 定 休 日：月・火曜日
 U R L：https://shiraku-paper.com/



ONLINE SHOP
 https://shiraku.base.shop/




Voice

甲斐 昭二さん

1300年の歴史を持つ和紙をはじめ、日本人は紙とともに暮らしてきました。その魅力を発信することで、地域の方々にもっと紙を好きになってほしい、現代の暮らしに取り入れるヒントになればという思いから、この「Paper Joy 紙楽」をはじめました。お近くにいらした際はお気軽にお立ち寄りください。

「手紙」は語る

植村鞆音

人間は表現する動物だというのが、手紙は人間の表現のなかでもっとも深く高貴なものだと思う。手紙は手書きがいい。眼光紙背に徹すれば、書き手の人となりが見えてくる。

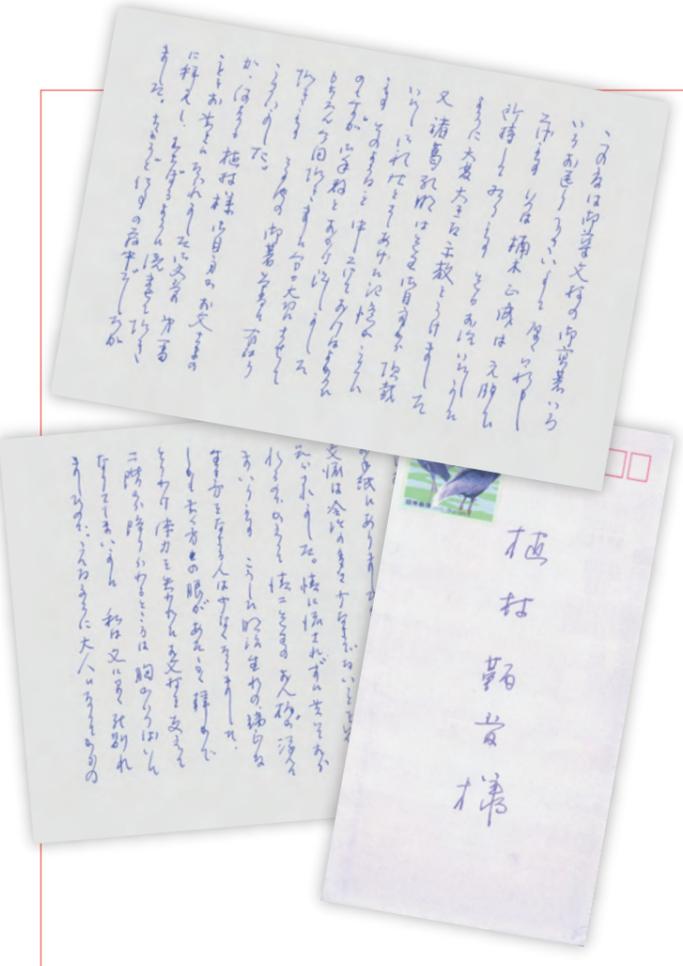
第三十二回 永井路子

歴史小説家の永井路子さんがこの一月亡くなったことを新聞で知った。九十七歳だったと読んで驚く。自分の年齢も考えずまだ八十代後半かと思っていた。今年も年賀状をさしあげたら、聖路加レジデンスで二緒に暮らしていた妹さんの代筆で、「姉は元気に暮らしている。代筆もたいへんなので来年から止める」という主旨の返信をいただいた。お元気でよかった。でももう永井さん直筆の年賀状は読めないのかと思ったのだけれど。永井さんとのつき合いはまだうちの父が存命の頃からなので、四十年近くになるのだろうか。手紙を取めた段ボール箱を探してみたら六十通近い手紙の束がすぐに見つかった。永井さんとのつき合いが始まったのは永井さんがまだ鎌倉山にお住いの頃だった。父清二宛ての手紙三通も住所は鎌倉になっていた。二通の消印が82年と読めるから、父は死の数年前、まだ東京の大学で歴史を教えていた。憶測するに、たぶん実兄、直木三十五の名を冠せた賞の授賞パーティーの席で関係者から永井さんを紹介され、直木賞受賞の歴史小説家と直木の実弟の歴史学者という縁でつき合いが始まったのだろう。永井さんと父はお互いの著書を贈呈し合い交流を続けている。

わたしが永井さんとのつき合いで知り合ったのは父は、永井さんとわたしが知り合ったことを喜んでくれた。永井さんとの縁が深まったのは、テレビ局で仕事をしていたが、永井さんの原作をドラマ化しようと企んだわけではなく、新しく企画したドラマの題字を彼女にお願いしたことにあった。狭義でいえば番組表を作成

の視聴率というものがどのような基準で測られるのか存じませんが、「雁」の第一回は私の周辺ではかなりの方が見ておられたようです。小さな集まりがありまして、昔の友達で映画好きで小うるさいの人が多い、八人の仲間が顔をあわせましたとき、見ていなかったのは新潟の一人ともう一人だけでした。単純にパーセントを出せばまさに70〜80%ということでしょうが、じつはこの連中には私の題字のことがありましたので口をぬぐって知らん顔をしていたので、全く不作業にあのドラマの次が出たのです。(中略)中には題字永井路子というのまでしっかり見てしまったのがいて「あなたが書くとはどういうわけ?」(中略)一番知られたくない連中にみつかってしまいましたしかしこのくらい注目を集めたのは何よりです(後略)。

ドラマの内容についてもお褒めの言葉が続いたが、紙数の制限があるので割愛。ドラマの質は高いいだしのわたしが満足したが、視聴率は永井さんのおっしゃるほど高くなかった。つき合いがはじまってしばらくして、永井さんはご主人の黒板伸夫さんとご一緒に北品川のマンションに移られた。彼女は人生設計の名手で、おつき合いの始まった六十代から終焉の用意をされていた。亡くなったのは介護つきの聖路加レジデンスである。わたしは父のめぼしい著書やわたしの著作を献呈し、永井さんからも出版されるたび署名入り著書の贈呈を受けた。



永井 路子

小説家
1925-2023

1925年、東京都生まれ。東京女子大学国語専攻部卒業後、小学館勤務を経て執筆を開始。綿密な取材と独自の史観に裏付けられた明快で親しみやすい作風で人気を集め、1964年に鎌倉時代を舞台にした歴史小説「炎環」で直木賞を受賞。1982年に「水輪」で女流文学賞、1984年に菊池寛賞、1988年に「雲と風と」ほかで吉川英治文学賞、2009年に「岩倉具視」で毎日芸術賞をそれぞれ受賞した。「北条政子」や「山霧一毛利元就の妻」は、それぞれNHK大河ドラマの原作にもなり、1997年には放送文化賞を受賞。2023年1月、老衰のため死去。享年97歳。

する広義でいえば経営の意志を表現する編成というセクションに身を置いていたわたしはいわゆる編成の常識に抵抗してみようと思いついた。月曜日の21時に編成した「日本名作ドラマ」は当時流行のドラマの通念から外れたものだった。わたしは、明治以降の文芸名作を腕利きの演出家の競作として、当たっていたトレンドドラマの真逆をいって、失墜しつつあった局の威信を回復しようと思った。その題字を永井さんをお願いしたのである。最初永井さんは躊躇されたが、それでも不承不承引き受けていただいた。そんないきさつがあつて、永井さんは「日本名作ドラマ」をほぼ毎回視聴してくださいました。

「雁」拝見しました。鳴外と現代が適当にミックスされていて大変見ごたえがありました。主役の田中(裕子)著者注)さんなのですが、脇役陣が稀にみる充実ぶりです。ドラマを楽しんでくれます。昔フランス映画を見るたび脇役のうまさにごまかされたのでウツンとびびくり一瞬眼をつぶりました(後略)。

ボツときめこんでましたのでウツンとびびくり一瞬眼をつぶりました(後略)。「雁」は「日本名作ドラマ」の第二回放送分で、久世光彦さんに演出してもらった。永井さんはその後の別便でまた、こう書き綴っている。

「日本名作ドラマ」大変評判になった御様子うれしく思っております 巷間

丸谷才さんに勧められて、毎日新聞紙上に永井路子の「三冊の本」を推薦したこともある。彼女はわたしの出版記念会で二回にわたってスピーチをしてくださった。思い出はつきないが、わたしの著作に関する誉め言葉は、人生本番に著述業を選んだわたしを勇気づけてくれた。

「(前略)何よりも植村様ご自身がお父さまのことをお書きになられました御文章の一番目に拝見し、むさぼるように読ませていただきました。ちょうど仕事の最中でしたが手にとったらやめられず次から次へと一気に読了いたしました。近來にない感銘をうけましたのはお父様を思われるお心が溢れているが、しかもべたべたせずじつにさわやかなものだったからです(中略)とりわけ体力を失われたお父様を支えて二階から降りられるところは胸がいっぱいになってしまいました(後略)」

四十二年間にわたるサラリーマン人生を終えたわたしは、第二の人生の柱に著述業を選んだ。第一作が伯父直木三十五の評伝「直木三十五伝」、第二作が父の評伝「歴史の教師 植村清二」。その後さしたる成果もなく老残の日々を送っているが、このたび永井さんの計報に接し、彼女の手紙を読み直して感慨新たなものがあった。「はめてやらねば人は動かじ(山本五十、六)か。ナイーブな人生には特効薬が必要だとしみじみ思う。

著者略歴 植村鞆音 エッセイスト

小説家・直木三十五の甥、東洋史学者・植村清二の子として愛媛県松山市に生まれる。1962年早稲田大学第一文学部史学科卒業後、東映を経てテレビ東京に勤務。同局常務取締役、(株)テレビ東京制作代表取締役社長等を歴任。2005年「直木三十五伝」で尾崎秀樹記念・大衆文学研究賞受賞、2007年「歴史の教師植村清二」で日本エッセイスト・クラブ賞受賞。主な著書に「夏の岬」「気骨の人 城山三郎」など。

TSUNAGU vol.53「手紙」は語る 第三十一回 佐多稲子にてお名前に間違いがありました。正しくは「壺井繁治」様、(誤:「壺井重治」様)です。読者の皆様ならびに関係各位にご迷惑をおかけしましたことをお詫びするとともに、訂正させていただきます。

▶ 当社グループのコーポレートサイトをリニューアルしました

当社は2022年10月1日を持ちましてホールディングス体制へと移行しました。これに伴い、KPPグループホールディングス株式会社のコーポレートサイトを新たに開設し、国際紙パルプ商事株式会社のコーポレートサイトをリニューアルしました。両サイトとも、スマートフォンやタブレット端末などからも快適にご覧いただけるデザインを採用しています。

これからも当社は、ステークホルダーのみならずへ向けてより有益な情報をわかりやすく発信していきます。



KPPグループホールディングス コーポレートサイトの見どころ

POINT1 特徴・要点を端的にまとめた「早わかり」

初めて知っていただく方々にも当社を理解していただくことを目的とした、「KPPグループ早わかり」コーナーを設置しました。当社の拠点をはじめ、業績や沿革、事業内容、これからのビジョンまでを時間をかけずにご覧いただけます。



POINT2 ホットな話題がひと目でわかる「グループトピックス」

ニュースリリースとは別に、KPPグループホールディングスやグループ会社に関するニュースをまとめた「グループトピックス」コーナーを設置しました。新商品やイベントに関する情報などがひと目でご確認いただけます。

POINT3 KPPグループの経営基盤をまとめた「KPPグループウェイ」

当社では、ホールディングス体制への移行に向けて2021年より組織改革のためのプロジェクトチームを組成。新体制の経営基盤となる「KPPグループウェイ」の刷新に取り組んできました。改訂にあたってはパーパス経営の考え方を取り込み、KPPグループの存在意義について同プロジェクトで議論を重ね反映しています。

Please visit our website

KPPグループホールディングス株式会社
KPP GROUP HOLDINGS CO., LTD.

<https://www.kpp-gr.com/>

国際紙パルプ商事株式会社
KOKUSAI PULP&PAPER CO.,LTD.

<https://www.kpp-gr.com/kpp/>

今回のリニューアルにともない、国際紙パルプ商事のサイトはURLが変更となりました。ブックマークをされている方々は、新アドレスへの登録変更をお願いします。

※これまでのURLにアクセスした場合、一定期間自動で新しいサイトに遷移します。

「TSUNAGU GALLERY×OJO+展」が開催中

Natural Filament Fiber
OJO+
column
vol.01



サステナブルな素材として注目が高まっている「かみのいとOJO+」をテーマにした「TSUNAGU GALLERY×OJO+展」が2023年3月より開催中です。この「TSUNAGU GALLERY」は、本誌で紹介した作家の作品を展示する企画展として不定期で開催しているものです。

本展示では、環境にやさしい紙系繊維「OJO+」ができるまでの過程について、原料となるマニラ麻の現物とともに紹介。また、「OJO+」の幅広い用途を知っていただくために、「OJO+」を使用した有名ブランドの製品を集めて展示しています。シャツやジャケット、靴下といった衣類をはじめ、帽子やバッグ、靴などを実際に手に取り、その軽さやさらりとした肌触り、他の繊維との違いを確認することができます。さらに会場の床には、多方面で注目されている「OJO+」製の人工芝「OJO+Grass」を敷設。しなやかな感触を、ぜひ実際に体験してみてください。

また、展示に使用されているパネルはすべて、グループ会社のアンタリスが提供する「コアラエアボード」(本誌第49号にて紹介)を採用しています。

INFORMATION

「TSUNAGU GALLERY×OJO+展」

会場：KPPグループホールディングス本社
1階エントランス
(東京都中央区明石町6番24号)
来場料：無料
開館時間：9:00～17:00(平日のみ)
問合せ先：KPPグループホールディングス株式会社
コーポレート・コミュニケーション室
TEL：03-3542-4169



「コアラエアボード」は紙をベースにつくられたハチの巣のような形状をしたボードであり、100%リサイクル可能な環境にやさしい素材として関心が高まっている製品です。この機会にぜひ実物をご確認ください。



Book Cafe Hale Kitazawa (ハレキタザワ)

東京都足立区六月2丁目33-3

TEL: 03-3859-1141

営業時間: 10:00~17:00 (貸切営業あり)
不定休

@bookcafehalekitazawa



文化を通してつながりを育む、地域に密着したブックカフェ

昔ながらの下町の影が残る東京都足立区。新しいマンションが建ち並び閑静な住宅地のなかで、ひととき存在感を示しているのが、「ブックカフェ ハレキタザワ」です。かつてフレンチレストランとして営業していた屋敷を改装し、2021年11月にオープンした店舗は、地域の憩いの場として愛されています。開放的な店内から続くテラスには四季折々に美しい表情を見せる花々が咲き誇り、爽やかな風を感じながら読書とコーヒーを楽しむことができます。「このブックカフェは、地域への恩返しとしてはじめたんです」。そう話すのは、オーナーの北澤艶子さん。地元・足立

区で不動産業をスタートし、創業67年を迎える株式会社北澤商事の会長を務めている北澤さんは、地域の人々が「つながり」を育む拠点として、この「ハレキタザワ」を開放しています。入場料300円を払うと、書庫に並ぶ約2,000冊の蔵書を自由に閲覧できるうえ、ドリンクサーバーの飲料は何杯でも飲めるなど、地域の人々の役に立てればという思いが込められています。

また、店内で定期開催されるイベントやカルチャースクールも魅力の一つ。なかでも長年ハワイアンミュージック奏者として活躍してきた北澤さんのご主人が教えるウクレレ教室は、遠方からも生

徒を集めるほどの人気です。「練習の成果を披露する発表会で、みなさんが学芸会に出るように楽しんでくれるのが嬉しいんです」と北澤さん。「ハレキタザワ」は、気軽に文化に触れ合うことのできるコミュニティスポットとして、訪れる人々の心を豊かにしています。



オーナーの北澤艶子さん(写真:左)とマネージャーを務める次女の里弥さん。元プロミュージシャンのご主人のほか、艶さんはシャンソン、里弥さんはジャズを愛好するなど一家で音楽に造詣が深い。



輸送マイルージとCO2排出を抑え、地球温暖化に配慮したライスインキを使用しています。



針金・糊・熱が不要な製本方法を採用し、リサイクルや怪我の危険へ配慮しています。



KPPグループホールディングス株式会社
KPP GROUP HOLDINGS CO., LTD.

発行: コーポレート・コミュニケーション室
〒104-0044 東京都中央区明石町6番24号
TEL (03) 3542-4166 (代)
<https://www.kpp-gr.com/>